

研究成果の海外発表報告 (AMITP 2012)

高橋 剛*

Report of presentation for the international conference (AMITP 2012)

Tsuyoshi Takahashi

1. はじめに

2012年(平成24年)10月17,18日,国際会議”AMITP2012”(International Conference on Advanced Materials and Information Technology Processing)が台北市で開催された。

AMITPは,機械材料,加工,材料力学などを含む研究発表会であり,毎年東南アジアで開催されている国際会議である。著者は,釧路工業高等専門学校の平成24年度国際交流基金の支援を受け,この会議に参加発表した。

さて,日本は1945年の終戦までの約50年にわたり,台湾を統治し,近代化を進めたことで知られており,歴史的つながりは強い。その象徴的施設が写真1に示す台湾総督府である。これは首都台北市にあり,この建物は現在でも中華民国の総統府として使用されている。その首都台北市は,台湾最大の都市であり,古くから日本の有名デパートが店舗を構え,数多くの日本企業も現地法人として進出している。それだけ馴染みの深い関係にあるため親日的な台湾人も多いとされる。気候的にも暖かく,物価も安いので住みやすそうな雰囲気がある。

産業に目を向けると,これまで服装や織物が代表的産業であったが,近年AcerやASUSと言った日本でも有名なPCメーカーに代表される家電製品や今,世界の

自動車産業界で注目集めているFA機器の製造メーカー士林電機など電機産業が急成長を遂げ,海外有力企業との結びつきも多く,東南アジア諸国をリードするグローバル化の進んだ国と言える。

その他,台北にある重要観光施設と言えば,やはり故宮博物院であり,日本に最も近い世界4大博物館の一つと言われる。時の首相蒋介石が中国を脱出し,台湾に逃れるとき北京の故宮から重要美術品のほとんどを持ち出したとされる。この博物院の所蔵品は,テレビ東京の某TV番組で度々,プロの鑑定士が「本物は台湾の故宮博物院にある」として紹介されるので,その歴史的価値は広く知られている。夜も開館しているので時間的余裕があれば一度訪れることをお勧めする。



写真2 会場アナウンスプラカード



写真1 旧台湾(現中華民国)総督府



写真3 会場内風景と著者

*釧路高専機械工学科

2. 国際会議と発表

予想に反して発表件数が少なかったが、その半面、上述したように複数の分野が一つの会場で聴講することができ効率的であった。内訳は機械材料関係が約6割、加工と材料力学がそれぞれ約2割ずつであった。発表内容の傾向としては、材料で言えば電子機器に使われる樹脂やプラスチックと言った高分子材料、複合材料、磁性材料などが目についた。これは、上述したように近年、台湾で電機産業が急成長していることも関係していると思われる。

発表者は地元台湾が大半を占め、中国系の発表件数が多かった。日本からも数名参加していた。その中に著者と別件で発表した岩淵義孝教授も含まれている。会場も数十人が入る小さな部屋であり、そこで全ての発表が行われたので終日いっしょにいるため、会場内は和やかな雰囲気だった。なお、通常の国際会議なら当たり前の座長を設けておらず、事務員が進行する形式には最初違和感を覚えたが、直ぐに座長なしのスタイルに慣れ、皆、遠慮することなく多くの質問や議論があった。

さて、著者の発表タイトルは「Factor Affecting Corrosion Behavior of Weldment of AISI304 (SUS304) Stainless Steel in Cold Region」であり、論文の共著者は岩淵義孝教授、教育研究支援センター石塚和則技術専門職員である。これは、例えば釧路の冬期間の昼夜に見られるように凍結融解と塩害に晒される厳しい環境下で、ステンレス溶接構造物が使用されたときの孔食挙動を解明するものであり、地域共同テクノセンターの「凍結融解塩害装置」と「ボルタメトリー」を使って実験している。複数の要因が絡みあった複雑な現象が現れ、未だに解明できていないのが現状であり、これについては更に研鑽を積み、少しでも前進させたいと思っている。さて、発表後の質疑応答は時間内にはなかったのが残念である。理由としては、専門家が会場内におられなかったことも考えられるが、座長なしの運営も影響もあると思われる。座長なしは、良い面もあるが必然的に時間管理がルーズになり、スケジュールが遅れ始めた。そのため、後半のセッションは全般的に質疑応答を自重し、遅れを取り戻す雰囲気であった。著者の発表も後半であったため予定開始時が大幅に遅れた。そのことも影響していると思われるが、会議後同席していた研究者から発表内容について質問を幾つか受けた。このような貴重経験を踏まえ、今後の研究活動に活かしていきたい。

参考までに、この会議案内のurlを以下に示す。

<http://www.amitp-conf.org/>